

## 長崎鶴洋高校 第2回 意見交換会

1. 場 所 長崎県立長崎鶴洋高等学校（長崎市末石町157-1）
2. 日 時 令和7年11月28日（金）13:00～16:40
3. 出席者 長崎鶴洋高校職員8名、生徒24名  
長崎県漁業協同組合連合会、昭徳水産株式会社、  
長崎県旋網漁業協同組合、開成水産株式会社、東洋漁業株式会社  
長崎魚市株式会社、長崎県水産部水産経営課、  
長崎市農林水産部水産振興課、長崎県教育庁高校教育課

### 4. 内容

○校長あいさつ

○学校説明（概要）

- ・次年度は洋上風力や潮流発電など、海洋人材の育成も行う。
- ・水産試験場では、市の水産センターと共同でハイブリッドサバとマサバの研究開発に取り組んでいる。
- ・本校1年生に対して、海・船に興味関心を高めるため、海友丸船内に一泊乗船し、五島沖まで航海実習を実施。
- ・フィッシングコンテストで海浜清掃の実施。
- ・スクーバダイビングの資格取得。
- ・2年生が伊王島で洋上風力の説明を聞き、実際に五島まで見に行くことができた。
- ・水産科の生徒の学びとして、2年生で漁家研修（漁師宅に1週間の宿泊研修）、1・2年生向けの漁業ガイダンス、水産業ガイダンス、進路ガイダンスなど、直接漁師の声を聞く機会を設定。



○授業見学（3年生の水産科の授業）



缶詰の真空度を計測する授業



漁船用の網を修繕・制作



## 5. 学びの発表（各班から）

### ① 水産科1年生

- ・週に6時間水産に関する授業。
- ・海洋情報技術と水産海洋基礎。
- ・手旗信号の実習
- ・臨海実習場での生物観察
- ・プール実習・水泳訓練
- ・「すいらん」と「海友丸」の実習

### ② 2年生航海

- ・目標：4級海技士（航海）取得
- ・航海・計器、船舶運用、漁業（高等学校漁業技術検定の取得も）、海上無線（第二級海上特殊無線の取得も）、総合実習（海友丸・すいらんの乗船実習）では韓国の方ド水産高校と交流。
- ・大型船と小型船の操縦の難しさの違いを感じた。



### ③ 2年生機関

- ・目標：4級海技士（機関）取得
- ・船用機関、機械設計工作、電気理論、制御、乗船実習等
- ・乗船実習では、発電機の点検など、機関独自の内容も実施
- ・溶接実習もあり、アーク溶接等を実施。

### ④ 2年生情報通信

- ・通信術（モールス信号を使った送信・受信など）、移動体通信工学・電気理論、総合実習（オシロスコープを使った波形調査など）。
- ・課題研究でドローンを使って救命装置の移送に関する研究に取り組んだ。
- ・小学生向けなどにドローンの体験会を実施。

## 2年生コンサルティング

- ・総合実習（主に淡水魚の飼育）
- ・水産流通（水産物の流通について）
- ・資源増殖（水産物の増殖法など）
- ・海洋生物（海洋生物の特徴など）
- ・食品管理（食品衛生・食中毒など）
- ・漁業（漁法や漁業環境など）



## 6. 生徒との意見交換会

### ○水産関係企業

- ・弊社では4級海技士の資格があれば即戦力。そのため、資格取得を目指して欲しい。
- ・入社後は、多くの種類の船に乗ってもらいそれぞれの船の役割を知ってもらう。その後、本人の適性に合った船に配置する。
- ・弊社はマグロ漁のように半年～1年乗り続けることはない。3週間出て1週間休み。
- ・船に乗っている間の食事は全てこちらで準備する。
- ・船での生活はコミュニケーションが大切。
- ・海外旋網船と国内旋網船があり、世界・日本全国に魚を獲りに行っている。

### ○生徒の現時点での進路希望

- ・家業の定置網（対馬）
- ・捕鯨船
- ・調査船
- ・マグロ漁師
- ・魚加工（寿司屋）



### ○市水産振興課

- ・市役所の仕事は漁師や漁協など多く人と付き合う仕事。
- ・その方々の困りごとに対して、人を繋いで解決に導く。
- ・人の話をきちんと聞くことが大切。

### ○長崎魚市

- ・魚市の仕事は漁師さんが獲ってきた魚を競りに適正価格でかけること。
- ・漁師が儲かるよう、適正な価格をつけるのが難しい。

## 7. 教員との意見交換会

### ○水産関係企業

- ・楽しいと思えることをやって水産業に興味を持ってほしい（ドローンなど）
- ・ICT機器が使える人材が必要（タブレットやPCなど）

- ・水産高出身の方がコミュニケーション力を持っているが、普通科出身の生徒でも意欲的に資格取得をしてキャリアアップを目指している。いい意味でライバル意識を持って頑張っている。
- ・船舶調理師も不足しているので、こちらの仕事に興味があれば、希望して欲しい。

○長崎市農林水産部

- ・水産業界の人材が不足している。
- ・水産業界においても、変化に対応できる人材（新しい考えを取り込める人）

○学校

- ・実習船での経験で生徒の団結力や生徒の内面が大きく成長しているので、今後も実習船教育を充実させていく必要がある。

